## ■おしどりマコ氏との政策協定締結のお知らせ

続いて、おしどりマコ氏との政策協定締結についてご報告いたします。

４月の統一地方選挙においても、伊方原発広島裁判原告団・応援団は、原発問題という政治課題を担って奔走する議員・首長を一人でも多く誕生させたいという主旨から、党派もさまざまな１６名の議会議員選挙候補者・市長選挙候補者との間に政策協定を締結し、そのうち１１名の候補者が当選しました。

このたびの国政選挙においても伊方原発広島裁判原告団・応援団は、統一地方選挙の場合と同じ主旨から候補者との政策協定締結を求め、７月２１日に投票が行われる参議院議員選挙の比例代表候補者 おしどりマコ氏と同封のような政策協定を締結しました。ぜひ内容をご一読いただきたいと存じます。

（なお、政策協定締結以前に、おしどりマコ氏と直接お会いしました。想像を超えるほど相当な取材や勉強をされていること、引き出した情報はこれまで国会の場でも利用されていること、原発問題に集中し覚悟をもって挑んでいることなどを知りました。原発専門の国会議員が必要だと常々思っておりましたが、おしどりマコ氏は納得して推せる人物と判断しました。）

原発によって日本列島全体が放射能汚染される事態が起こらないうちに、日本の原発を確実に止める闘いをともに継続してまいりましょう。

**伊方原発広島裁判原告団・応援団事務局**
http://saiban.hiroshima-net.org
E-mail:saiban_office@hiroshima-net.org
〒733−0012 広島市西区中広町2-21-22-203
電話：090-7372-4608（原田）

### 次回第64回原告団・応援団会議（総会）のご案内

伊方原発広島裁判原告団・応援団は、原告・応援団のみなさまがどなたでも参加できる「原告団・応援団会議（総会）」を意思決定機関としています。

総会は、だいたい月１回のペースで開催しています。次回第64回総会のご案内です。

**日時：2019年7月28日（日）15:00～**
**会場：広島市西区民文化センター３階小会議室１**

# 政策協定書

【はじめに】

2011年の東京電力福島第一原発事故（以下福島事故）から８年が経過します。同原発は、現在「特定原子力施設」とする枠組みの中で特別な扱いを受けています。地震、津波で決定的なダメージを受け、さらに炉心溶融、水蒸気爆発などを起こした同原発を現在の原子力規制下に置くことができず、規制の外で特別扱いせざるを得ないのです。

同原発は日本の原発施設の中で最も脆弱で、地震、津波、台風など外部事象の影響を最も受けやすい施設です。いつ「第２の福島事故」が起こっても不思議ではない状態といえましょう。

福島事故では「最悪のシナリオ」にみられるように、首都東京を含めた東日本壊滅の危機、一歩手前の状況でした。数々の僥倖に見舞われ避難指示範囲が福島県内で収まりました。

「第２の福島事故」ではそのような僥倖を期待することはできません。

つまり東電福島第一原発は日本社会や国家としての日本における最大のアキレス腱なのです。

にも係わらず、福島原発の安全対策は東電任せ、規制委まかせの状況が続いています。

あまつさえ国際標準からみれば抜け穴だらけの「新規制基準」をわずか１０カ月間で作り上げ、規制基準適合性審査に合格した原発は安全、と称して原発の再稼働が行われています。

翻ってみれば、消費税増税問題、年金問題、景気問題、憲法改正問題、社会的格差是正問題、沖縄基地問題など数々の政治課題に私たちは直面していますが、それもこれも日本という国家がこのまま存続するという大前提があってのことです。

東電福島第一原発を含む「原発問題」は、この大前提を揺るがしかねない問題です。

この意味で「原発問題」ほど重要で最優先におかれるべき政治

課題はないといえましょう。

ところが昨今の政治情勢は、「原発問題」に本来位置づけられるべき最優先政治課題の地位が与えられておりません。

その最大の理由の一つは、日本の国会議員の、この問題に対する知識の浅薄さ、理解の浅さ、見識の低さ、問題意識のなさ、優先事項選択の誤りにあります。

従って原発問題、高レベル放射性廃棄物問題、私たちの生活空間に危険な放射能を持ち込みかねない低レベル放射性物質処理問題について国会は、独自の政策提言機能や政府提案政策に対して全くチェック機能を果たしておりません。

ここに原発問題に深い知識と理解、高い見識と政策をもった国会議員を生み出す必然性があります。(以下「原発問題専門国会議員」と称します。)

私たちは原発問題専門議員を国会に誕生させる必要があることを痛感します。

以上の認識を基礎に、第25回参議院議員通常選挙比例代表制候補、おしどりマコ氏（立憲民主党公認）と伊方原発広島裁判原告団並びに応援団は以下の政策協定を締結します。

記

1. 原発問題専門参議院議員としてあらゆる機会を捉え、原発問題の重要性を世論に訴え、この問題に関する世論喚起を行う。

2. 参議院議員として、参議院で質問に立ち、原発問題の本質的重要性を参議院の場で明らかにしていき、かつ政策提案を行う。

3. あらゆる機会を捉え、原発問題専門参議院議員として、勉強会、研究会などを積極的に開催しつつ、同僚国会議員の啓蒙、見識向上に努める。

4. 高レベル放射性廃棄物問題に積極的に係わり、さらに低レベル放射性廃棄物、特にクリアランスレベル廃棄物（２０１２年環境省告示を指す）が一般市民社会の生活空間に浸潤しつつある状況に積極的に対して反対活動を行う。

5. 原発問題に深く関わる市民運動団体と国会を結びつける良質なパイプ役としての機能を果たす。

三者は上記政策に同意し協定を締結します。

締　結　日　　2019　年　7月　10日
第25回参議院議員通常選挙比例代表制候補

おしどりマコ

伊方原発広島裁判原告団

伊方原発広島裁判応援団

伊方原発広島裁判原告団・応援団合同事務局
堀江壯（原告団長）、伊藤正雄（原告副団長）、
原田二三子（応援団代表兼事務局長）、
小田眞由美（原告団事務局長）、
佐藤栄美子（応援団副代表）、
網野沙羅及び綱崎健太（原告団事務局次長）、
西本彩（応援団事務局次長）

参議院比例代表選出議員選挙
伊方原発広島裁判原告団・応援団　政策協定締結者紹介

# 全国 比例区候補（立憲民主党）

## 投票時には「おしどりマコ」とご記入ください。

# おしどりマコ氏

### プロフィール

本名：吉岡雅子（よしおか まさこ）

1975年兵庫県神戸市生まれ。兵庫県立長田高校卒業、鳥取大学医学部生命科学科に進学。

在学中の1995年、阪神・淡路大震災で地元が壊滅状態に。「医学では人は救えない、お笑いこそが癒しだ」と入学2年後に中退、お笑いの世界に飛び込む。

東西屋ちんどん通信社に入門し、アコーディオン流しを経て、横山ホットブラザーズの弟子になり、よしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属。おしどりケンと夫婦漫才「おしどり」として活動。（選挙のため、2018年9月からは一旦所属を離脱）。社団法人落語協会会員、社団法人漫才協会会員。2003年M-1グランプリ準決勝進出。2010年第4回インターナショナル・Vアコーディオン・コンテスト日本予選3位、審査員特別賞受賞。

2011年3月11日に起きた福島第一原子力発電所事故以降、政府や東京電力が繰り返した「直ちに影響はありません」という説明に「本当は何が起こっているのか」と違和感を感じ、東京電力への取材活動をスタートさせる。

当初は事故の状況を把握するため東京電力の会見内容を書き起こしていたが、その後会見に出席しメディアに発表してきた。東京電力記者会見には、誰よりも通っている。

また、様々な省庁、地方自治体の会見、議会・検討会・学会・シンポジウムを取材。また福島第一原発敷地の作業従事者や現地にも頻繁に足を運び取材し、様々な媒体で公開している。

活動が評価され、2016年12月第22回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞した。

### おしどりマコ政策

**脱原発・脱被ばく・脱情報改ざん 脱情報隠ぺい・脱無関心**

ちゃんと情報が与えられて、一人一人が考える機会を持ち、あらゆる選択の自由がある、それがフェアな社会だと思います。

私は調べたい。知りたい。そして必要なあらゆる選択肢を作りたい。そういう方々をたくさん増やしたい。

自分で考えること行動することは面倒だけど、だれか任せにせず、私たちの社会は私たちみんなで作っていきたいのです。

文責：網野沙羅

【参照・引用資料】
おしどりマコ（https://www.oshidorimako.page）
ウェキペディア「おしどり（お笑い）」

画像引用：「おしどりマコ」フェイスブックより